

## [004] 生活体験学習研究表紙奥付等

<http://hdl.handle.net/2324/8993>

---

出版情報：生活体験学習研究. 4, 2004-01-30. 日本生活体験学習学会  
バージョン：  
権利関係：

## 日本生活体験学習学会 事務局報告

### I 日本生活体験学習学会理事会会議日程

- 第1回 2003年5月17日 於 九州大学教育学部社会教育学資料室
- 第2回 7月5日 於 九州大学教育学部社会教育学資料室
- 第3回 9月27日 於 庄内町立生活体験学校
- 第4回 11月22日 於 九州大学教育学部社会教育学資料室
- 第5回 2004年1月6日 於 九州大学教育学部社会教育学資料室

### II 会員実数 2003年12月15日現在

- 個人会員 165名  
法人会員 4名

### III 本年度の活動

- \* 第4回研究大会 開催  
2003年3月1日  
於 福岡県立社会教育総合センター
- \* 第5回生活体験学習実践交流会  
2003年10月18日  
於 福岡県庄内町立生活体験学校
- \* 学会通信の発行  
第16号 2003年4月18日発行  
第17号 2003年6月8日発行  
第18号 2003年10月31日発行  
第19号 2003年12月10日発行

### IV 理事会での協議事項及び決定事項についての報告

なお、以下の原稿は「日本生活体験学習学会学会通信」第16～19号に掲載しております「事務局からのお知らせ」によるものです。

#### (1) 第4回学会総会での決定事項

(学会通信第16号掲載)

3月1日(土)に日本生活体験学習学会第4回総会が開催されました。総会では出席者から中島幸一会員(中島歯科医院)、時田純子会員(如水保育園)が議長とし

て選出され、議長の議事進行によって進められました。

まず、事務局長の南里悦史会員からこれまでの学会活動報告と会務報告がなされ、予算案が提出されました。それを受けて会計監査の山岸治男会員によって監査報告がなされ、拍手によって承認されました。

次に、第2回日本生活体験学習学会役員選挙の結果について、選挙管理委員長の古賀倫嗣会員から以下の通り報告されました。また理事会推薦理事として、以下の方が推薦されました。

#### 1. 新理事(順不同)

- 相戸 晴子 会員(筑豊子育てネットワーク)  
猪山 勝利 会員(長崎大学)  
上野 景三 会員(佐賀大学)  
九野坂明彦 会員(庄内町立生活体験学校)  
窪田 貴子 会員(甘木市子育てネットワーク)  
正平 辰男 会員(東和大学)  
横山 正幸 会員(福岡教育大学)  
南里 悦史 会員(九州大学)  
森山 沾一 会員(福岡県立大学)  
古賀 倫嗣 会員(熊本大学)

#### 2. 監査(順不同)

- 小方 信二 会員(赤間保育園)  
松田 武雄 会員(九州大学)

#### 3. 推薦理事

- 桑原 広治 会員(五木北小学校)  
時田 純子 会員(如水保育園)  
緒方 泉 会員(九州産業大学)  
佐藤 洋美 会員(宇美東中学校)  
末崎 雅美 会員(九州大谷短期大学)

加えて、組織検討委員長の古賀倫嗣会員より学会組織体制の提案として、会則に〈附則〉を設けることが報告されました。

学会研究紀要及び年報発行について、紀要編集委員長の横山正幸会員より8月に第2号、3月に第3号を発刊されたことが報告されました。

また次年度、第4号についても、実践論文をより多く盛り込むなど、実践に還元しつつ理論を深める中身にしていくことが承認されました。

今後の研究活動について、研究担当の上野景三会員から、文科省科研費研究調査・研究プロジェクト「子どもの心と体の主体的発達を促進する生活体験学習プ

プログラム開発に関する研究」(代表：南里悦史会員)の3年間の成果をまとめ、少年期部会、幼年期部会共にプログラム開発を進めることが報告されました。加えて、3月末日に科研費調査中間報告書が発刊されることが報告されました。

さらに実践交流会事務局の九野坂明彦会員から、本年度第5回実践交流会の期日を10月18日(土)、場所を庄内町生活体験学校とし、さらに九州各地から実践報告を募り、実践交流会を発展させていくことが報告されました。

最後に、事務局長南里悦史会員より今後の学会活動として、以下の3案が提案されました。

- ①日本生活体験学習学会として定期的に県別集会を開催すること。
- ②学会のHPを立ち上げること。
- ③学会員やその他の方に対して、より迅速かつ大量の通信を行うために、インターネット用ワイヤレス通信機を導入すること。

### III. 寄贈図書

立柳聡会員(福島県立医科大学)より、3月18日に以下の図書2冊を寄贈いただきました。

立柳聡・小木美代子・深作拓郎 編著

『子育て学へのアプローチ-社会教育・福祉・文化実践が織りなすプリズム-』エイデル研究所2000年6月  
立柳聡・小木美代子・姥貝荘一 編 白井慎 監修『子どもの豊かな育ちと地域支援』学文社 2002年9月

#### (2) 第1回理事会での決定事項

(学会通信第17号掲載)

第4回研究大会の反省として、大会運営における理事の役割分担を明確化すること、研究大会の宣伝・広報の工夫(報道機関への連絡等)の必要性、分科会における議論の時間の確保が挙げられた。また研究大会の内容として、シンポジウムタイトルが実践と理論を融合する意味で適していたかどうかなどが議論された。さらに大会期日が福岡県下の各種学校の卒業式と重なっていたなど、期日設定の工夫が今後の課題とされた。

次に理事の新役員体制が以下のように決定した。

〈会長〉横山正幸理事

〈副会長〉猪山勝利理事・正平辰男理事

〈事務局長〉南里悦史理事

〈研究担当〉森山沾一理事、古賀倫嗣理事、上野景三理事、猪山勝利理事、南里悦史理事、桑原広治理事、時田純子理事

〈研究大会担当〉

森山沾一理事、緒方泉理事、末崎雅美理事

〈実践交流会担当〉

九野坂明彦理事、正平辰男理事

〈年報・学会誌担当〉横山正幸理事、相戸晴子理事、佐藤洋美理事、永田誠幹事

〈学会通信担当〉窪田孝子理事、末崎雅美理事

〈幹事〉東内溜里子幹事、永田誠幹事

紀要編集委員会より「生活体験学習Q&A」を蓄積し年報の発刊について提案された。

最後に学会を300人体制に高めるため8月までに学会紹介のリーフレットを作成し、各種研究大会・学会等で配布し、学会活動を認知してもらうことが提案された。今後ホームページ「<http://www.geocities.co.jp/NeverLand-Mirai/8495/>」を有効活用していくことが決定した。

#### (3) 第2回理事会での決定事項

第5回実践交流会について、①日時(平成15年10月18日)と、②プログラムの大まかな流れ(全体会→分散会A・B→分散会C・D→全体会)、③司会者、16本の事例発表、④昼食・休憩時間には、とうふづくり・蕎麦打ちの実演、が決定されました。

研究担当委員会からは、科研費研究の少年期部会、幼年期部会の進捗状況と外国調査(イタリア研究：9月29日～10月6日調査予定)について報告されました。

通信担当からは、実践交流会終了後、実践交流会特集として通信を発行することが報告されました。

#### (4) 第3回理事会での決定事項

(学会通信第18号掲載)

第5回実践交流会の、発表者・司会者の確認、及び実践交流会の準備・運営、プログラム内容について最終確認が行われました。また第5回研究大会について、研究大会実行委員長として、上野景三理事が理事会により推薦・承認され、開催期日・場所については、①

開催期日：平成16年1月31日(土)、及び②場所：社会教育総合センターが決定されました。研究発表領域について4室案（理論・歴史/比較・実践1・実践2）と、テーマ別案が提案されました。紀要編集委員会からは、学会誌第4号編集進捗状況、学会要覧リーフレット編集進捗状況が報告され、第5回研究大会までに発刊を予定していることが報告されました。生活体験Q&Aワーキンググループからは、「生活体験・事始め」の出版について協議内容が報告されました。また研究担当委員会からは、科研費研究の進捗状況と来年度申請について報告されました。

#### (5) 第4回理事会での決定事項

(学会通信第19号掲載)

第5回研究大会の開催を中心議題として協議されました。自由研究発表エントリーの確認の後、分科会の構成が検討され、それに基づき、発表者・司会者をリストアップしました。また、シンポジウムについても内容と登壇者の検討が行われました。

紀要編集委員会からは、学会誌第19号の編集進捗状況、学会要覧リーフレット編集進捗状況が報告されました。リーフレット原稿は回覧され、装丁や内容について校正を行い、研究大会の発行に間に合わせる事が報告されました。

(文責：東内瑠里子)